

若宮地区防災まちづくり協議会だより

第3号
令和4年3月

発行：若宮地区防災まちづくり協議会

防災まちづくりに関するアンケートの結果報告

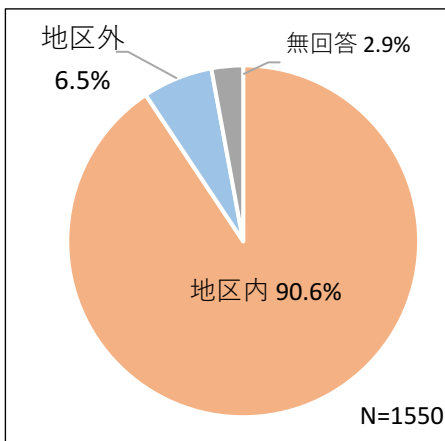
若宮地区防災まちづくり協議会では、防災まちづくりの取組を検討するため、地域の皆様を対象にアンケートを実施しました。1,000名を超える方々にご協力いただき、誠にありがとうございました。今回は回答結果の一部（単純集計結果）をご紹介します。

地域の皆様にもおかれましては、協議会の活動に対するご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

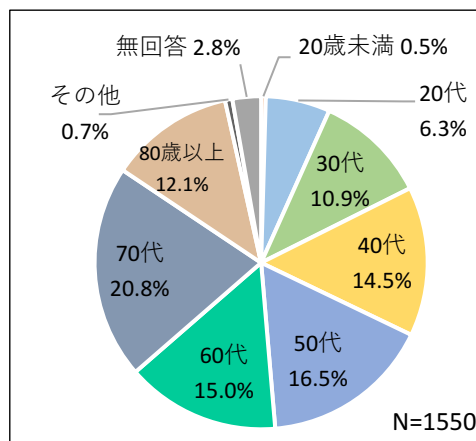
〈アンケート実施概要〉

実施期間	令和4年2月25日(金)～3月14日(月)
対象	地区内に建物・土地をお持ちの方 または、お住まいの方
配布数	8,868通
回収率	17.5% (郵送1,249回答/ web301回答)

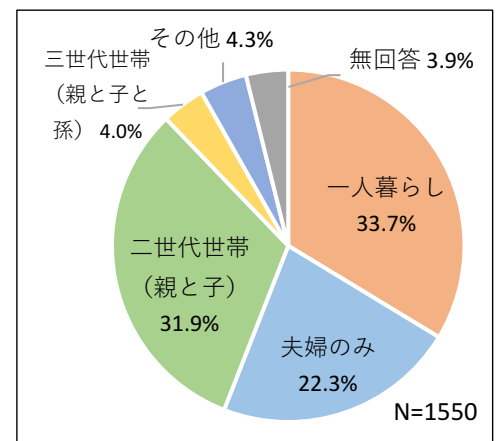
住所



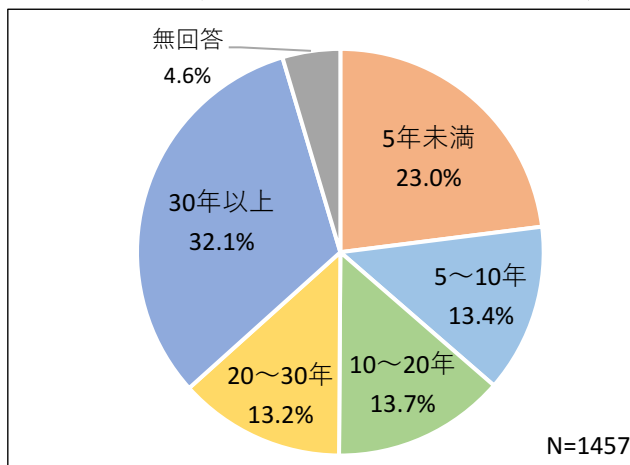
年齢



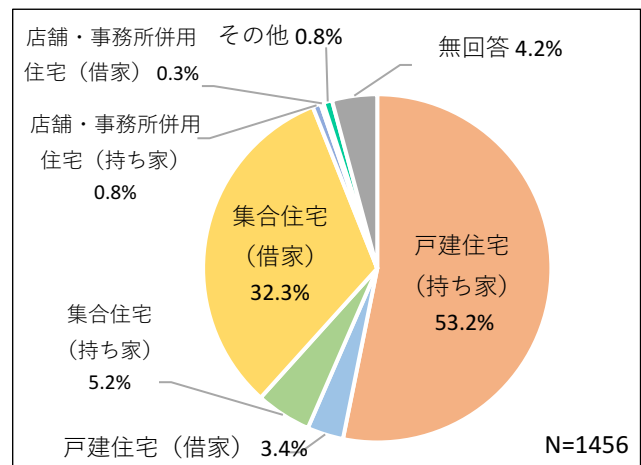
世帯構成



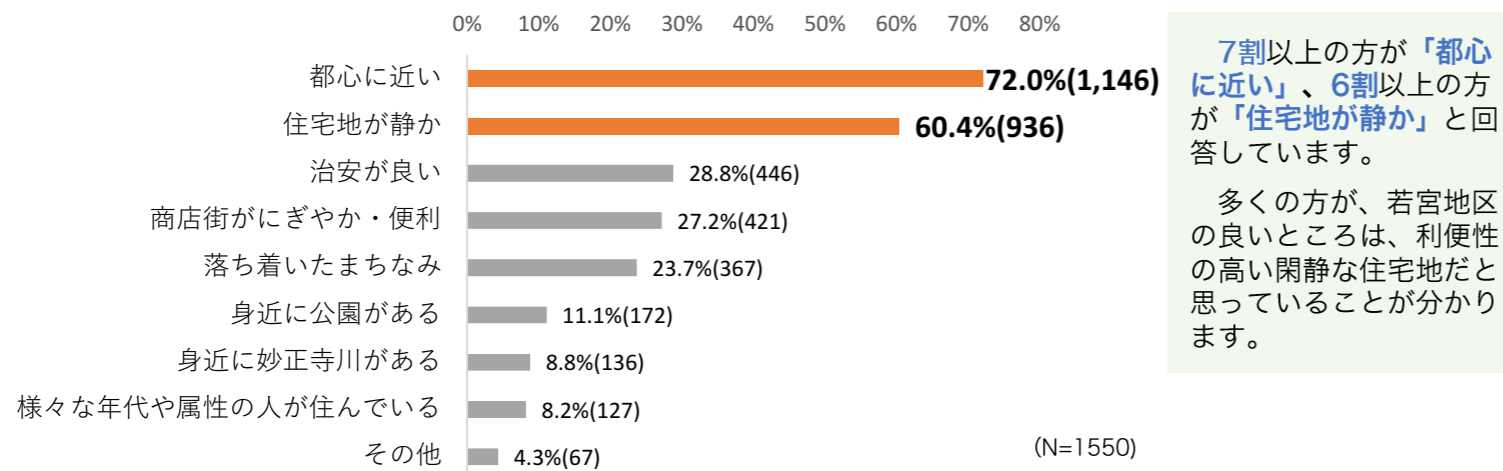
居住年数 (地区内にお住まいの方が対象)



住宅の種別 (地区内にお住まいの方が対象)



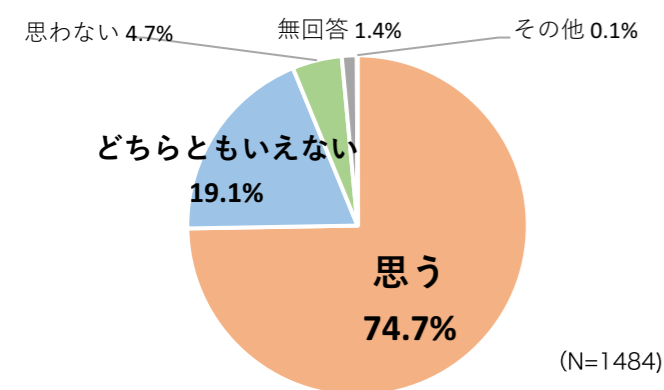
■若宮地区の良いところ・好きなおところ（複数回答 上位9項目を抜粋 ()内は回答数を示す）



7割以上の方が「**都心に近い**」、6割以上の方が「**住宅地が静か**」と回答しています。

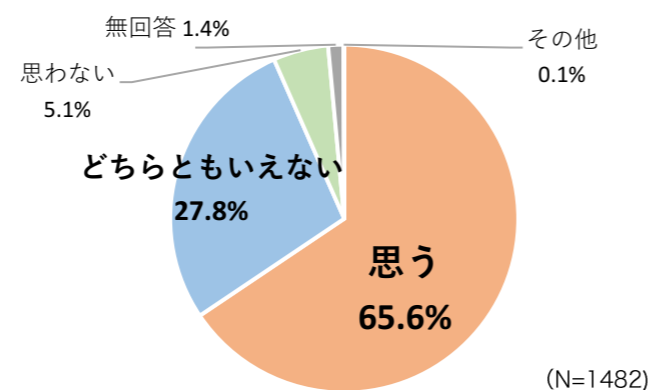
多くの方が、若宮地区の良いところは、利便性の高い閑静な住宅地だと思っれていることが分かります。

■若宮地区は住みやすい地域だと思うか（単一回答・地区内にお住まいの方が対象）



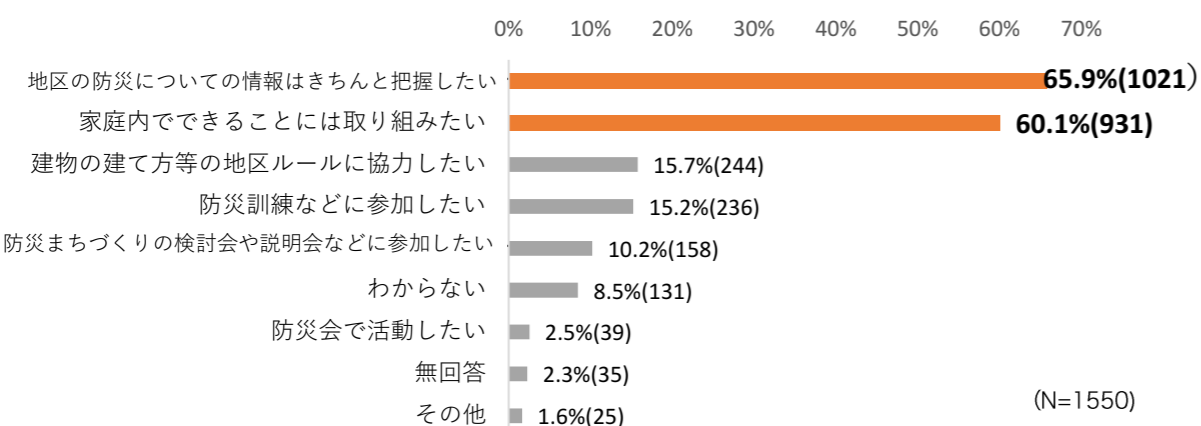
約7割の方が「**若宮地区は住みやすい地域だと思う**」と回答しています。

■若宮地区にこれからも住みたいと思うか（単一回答・地区内にお住まいの方が対象）



約6割の方が「**若宮地区にこれからも住みたいと思う**」と回答しています。

■若宮地区の防災まちづくりにどのように関わりたいと思うか（複数回答 ()内は回答数を示す）



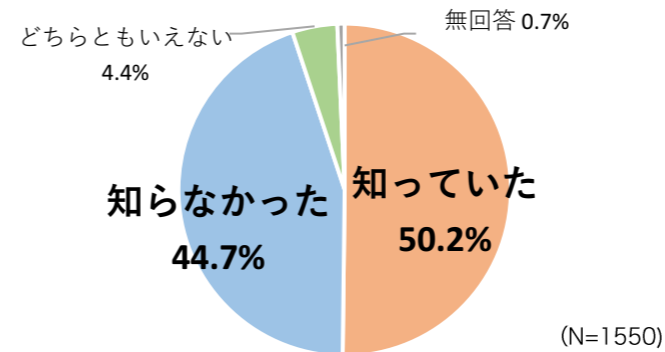
6割以上の方が「**地区の防災についての情報はきちんと把握したい**」、「**家庭内でできることには取り組みたい**」と回答しています。

一方、「**防災訓練などに参加したい**」など**地域の取組への参加意向に関する設問については回答が少ない傾向がみられました**。

■日ごろ生活をする中で、問題と感ずること（一部抜粋）

- ・倒れそうなブロック塀や人が住んでいない古い建物が放置されているところがある
- ・防犯カメラの無い通りがあり、夜間は暗いのが気になる
- ・伸びっ放しで管理が行き届いていない樹木があり、通行の妨げになる
- ・ごみの分別、曜日などマナーが守られていないと感じる
- ・建物の外壁の色がバラバラなので、まちなみに統一感が無いと感じる
- ・自転車について、路上駐車やスピードの出しすぎなどのマナーが気になる

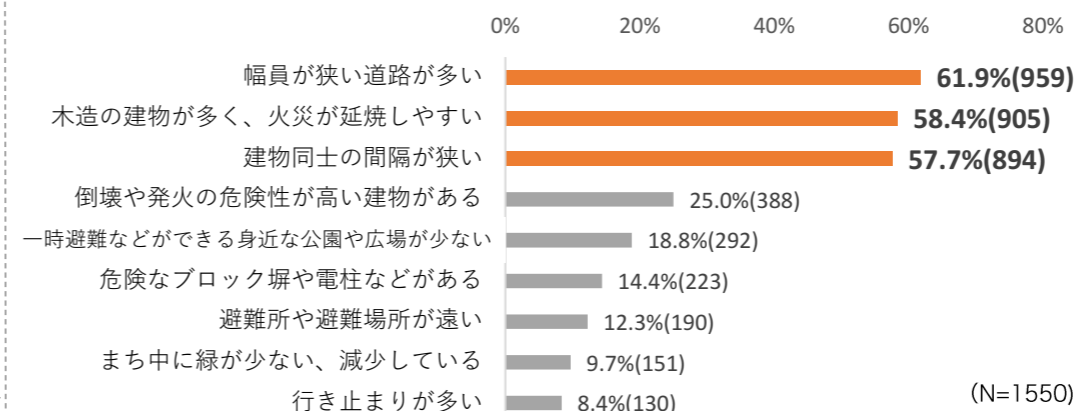
■若宮地区に防災上の課題があることを知っていたか（単一回答）



若宮地区に防災上の課題があることについて、**約半数の方が「知っていた」と回答しています**。

一方で、約半数の方は「**知らなかった**」「**どちらともいえない**」と回答しており、十分に認知されているとはいえないことが分かります。

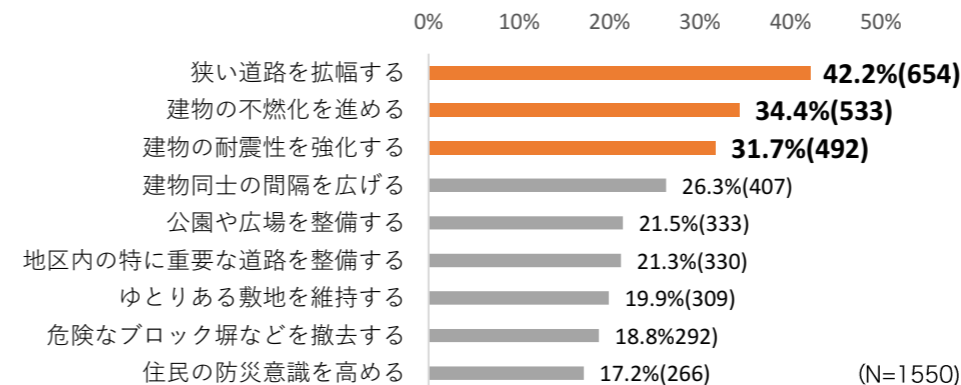
■若宮地区で大きな地震が起きた場合、まちでどのようなことが問題になると思うか（複数回答 上位9項目を抜粋 ()内は回答数を示す）



「**幅員の狭い道路が多い**」、「**木造の建物が多く、火災が延焼しやすい**」、「**建物同士の間隔が狭い**」の順で回答が多くありました。

次いで「**倒壊や発火の危険性が高い建物がある**」、「**一時避難などができる身近な公園や広場が少ない**」などが多く回答されています。

■今後、若宮地区でどのような防災まちづくりが必要だと思うか（複数回答 上位9項目を抜粋 ()内は回答数を示す）



「**狭い道路を拡幅する**」、「**建物の不燃化を進める**」、「**建物の耐震性を強化する**」の順で回答が多くありました。

今後の防災まちづくりでは、道路や建物に対する対策が必要だと考えている方が多いことが分かります。

■防災まちづくりについてのご意見（一部抜粋）

- ・新しい家が建つのは嬉しいことだが、3階建の家が密集して防災上、治安上に問題があるのではと心配
- ・防災のために家の建替えや改築などが必要なのはわかっているが、金銭的に難しい場合も多いと思う。国、都、区で行っている助成金などをわかりやすくまとめて知らせるはどうか
- ・道路の拡幅はスペース的に難しいので、建物の不燃化や消防設備の増設、木造家屋の改築費用への補助などが必要ではないか
- ・防災まちづくりは長い期間を要するので、早期に決定し取り組んでほしい

■今後の取組について

今後、アンケート結果の詳細な分析を進め、結果から見てきた地域の魅力や課題について、防災まちづくりの検討に活用して取り組んでまいります。

避難所は、災害により自宅に留まることができない場合に一時的に生活の拠点となる場所です。自宅が安全が確保できる場合は、集団生活のストレスがない在宅避難がおすすめです。

💡 災害時に自宅で生活するためのポイント

- 家が安全であること
- ご自身がケガをせず、安全な生活空間を確保すること
- ライフラインが途絶えても生活を継続できる準備があること

今回は、在宅避難で特に重要となる「トイレ」「日常備蓄」「水」の備えについて、お知らせします。

トイレの備蓄について

災害時には、汚水の逆流や損傷個所の噴出などが発生することがあります。災害時は排水管の損傷がないことを確認するまで、トイレを流さないようにしましょう。また、トイレが流せない間のことを想定し、災害用トイレなどの代用品を備蓄しておきましょう。

災害用トイレなどの例



組立て式タイプ



便袋(凝固剤入)



家庭のトイレなどに取付けて使用するタイプ

災害時にどれくらいトイレの備蓄が必要になるか、確認してみましょう！

人 × 回※1 × 日※2

※1 平均的な使用回数は1日5回とされています

※2 おおよそ3日~1週間程度が目安となります

日常備蓄 (ローリングストック)



日ごろから自宅で使っている品物(缶詰、レトルト食品など)を少し多めに備えることです。普段の買い物でも取り組めておすすめです。目安として、**3日~7日分**の備蓄が必要です。

災害時の水について

災害時は水道の断水により、通常の給水が困難になることが想定されるため、自助の取組として個人の備蓄が重要です。

目安として、**1人1日3L**の飲料水を備蓄しておくことが重要です。

また、公助の取組としては、右で示すような区や都水道局が行っている飲料水確保の対策があります。

※参考：

『中野区民防災ハンドブック(発行：中野区)』

『東京防災(発行：東京都)』

- ① 区での水の備蓄
- ② ウォータータンクによる水の配布
- ③ 応急給水栓

▷①~③については、避難所等の各施設にて設置・配布されます。

- ④ 災害時給水ステーション

▷お近くの浄水場、給水所、応急給水槽等に開設されます。お越しの際にはポリタンクやペットボトルなどの容器を持参する必要があります。

若宮地区から近い場所は、**区立学田公園**(練馬区豊玉南3-32)、**区立馬橋公園**(杉並区高円寺北4-35-5)、**区立江古田の森公園**(中野区江古田3-14)になります。詳細は、東京都水道局HPをご覧ください。



在宅避難中でも物流が停滞し、食糧等の販売がない場合には、避難所で食糧等を受け取ることが出来ます。**発災後、指定の避難所で在宅避難者名簿に登録**してください。

問合せ先

※お問合せは事務局へお願いいたします

若宮地区防災まちづくり協議会事務局

(株)都市環境研究所
担当：藤野、酒井、大井

TEL : 03-3814-1001 (代表)
FAX : 03-3818-2993
E-mail : fujino@urdi.co.jp

中野区担当

中野区まちづくり推進部
まちづくり計画課

担当：齋藤、堀
TEL : 03-3228-5463 (直通)

中野区HP
情報発信中

